

■はじめに（佐藤部会長）

○今日は、第4回、第5回の部会で検討していただいた内容を報告していただき、全員で各部会の検討状況の情報を共有していただくことと、皆さんで意見交換を行うことで、第7回以降の進め方の確認や、部会移動の調整をしたいと考えている。

まず、各部会長から報告していただき、その報告に対して各メンバーで補足をしていただき、その後、全体のメンバーでいろいろな意見交換を行っていただきたい。これを6つの部会で行っていく。なお、まちづくり部会の隼田部会長は、ご病気で今回は欠席となる。

■部会発表：説明・意見の概要

1【高齢化・市民活動部会：部会長説明】

○ハード、ソフト、ハートづくりの枠の中に重要な内容を書き加えてある。特に重要と考えているのが、マトリックスの左下、太い矢印が出ているが、マンパワーを活かすシステムづくりを考えていかなければならないのではないかと。

○一番上の「市民活動」には、「コミュニティ」というキーワードが入っている。コミュニティのところを見ていただくと、いろいろな考え方が入っているが、特に「自治会」という言葉がたくさん出てきており、今までの自治会の活動と今後の活動で重要ではないかと。

○中期のところでは、まちづくりの支援事業で出会いの場が必要であるとか、市民活動団体に人的余裕がないので工夫しなければいけないとか、協働でコミュニケーションや連携が必要であるとか、優秀なスタッフが確保できないなどの意見がある。

○中段のところでは、予防医療に力を入れていくべきではないかとある。これは、高齢者ばかりではなく、子どもたちのことも含んでいて、右の長期のところ中段で「江別で子供を産んで、育てたいと思える医療体制づくり」も重要である。

○すぐにでも必要ということでは、「道立高等養護学校の誘致」というのがある。

○中期のところの真ん中では、「バリアフリー化」というのがあり、高齢者から障がい者、子どもたちを含めてバリアフリーという考え方がある。

○マンパワーでは、10人に1人が学生という若い力の活用、そして大学が4つもあることから、「大学と地域の結びつきにおいて実効性のある政策提案」、「4大学連携のコーディネーター」といった人材が必要ではないかということと、高齢者が活躍するまちといったまちづくりが求められているということを示してある。

○一番右側の欄外の意見は、整理中のものである。特に、市役所にとっては厳しい意見が並んでいる。市役所の仕組みづくり、プロの育成、研修、若手職員と市民活動団体との話し合う場といったものが出ている。これから整理していくものとして置いてある。

## <委員補足>

なし。

## <高齢化・市民活動部会に関する意見>

○ 道内の総合計画を見ると、地方部では地縁を基盤にした町内活動を重視しており、江別ではもっとNPO活動にも注目して焦点を当てて、1つの戦略テーマとして検討すべきではないか。

江別は、NPO活動で進んだ地域である。NPOがさらに発展して新しい公共を担うことが次の総合計画では重要な要素になると思う。個々の項目を見ると市民活動団体というのがあつた。これは、たぶんNPOを指していると思うので、戦略テーマとして自治会と共にNPO活動を挙げていただきたい。

○ 高齢者の買い物難民について、スーパーなどが郊外に出て行って、町内に買い物をするところがない。コンビニはあるが不便。(→まちづくり部会と両方で議論を行う。)

○ カードで自治会活動がずいぶん意見として出ているが、自主的な活動なのでなかなかまとまりがつかなく、何でも自治会に任せるといふのはいかがなものかと思う。

○ 欄外にある市立病院の民間への売却について、提言としてはかなり大きくて、もし本当にやるとすると相当腰を据えて行わなければならないことである。どこの枠に入れるかという問題ではなく、提言として入れるべきものかどうか、その扱いが困難である。同様に、優秀な医師の確保も市民会議の提言でこの意見を入れて良いものか、その通りなのだが実際にどうやってやるか疑問である。

もう1点、他の部会でなかなか取り上げられていない市役所の職員等に関する提言が、枠外にあるが、ここの部会で取り上げないと出てこないのが非常に重要な提言であると思う。

○ 「学校の空き教室を利用した高齢者が学べる場所の整備」という意見は、空き教室については、安全・安心部会の方から見ると、防災の備蓄を今後どうやっていかなければならないのかということ踏まえて、この意見の部分を充実させていただきたい。

○ 学生のことでは、大麻の夏祭りには大変多くの学生が協力しているが、市だけでは難しいと感じるので、積極的に参加させようとする大学のスタンスがあると良い。

## 2【暮らし・定住部会：部会長説明】

○ 出された意見については、関連する内容でまとめてあるが、まとめた名前は付けていない。

○ 左上の「耐震化」の部分は、安全に関すること。

○ 非常に多かった意見として、短期から中期にかけて子育てに関することが集まっている。特に、子どもの場合は、対策が遅れると子どもの成長は待てないものである。子どもに関しては、短期・中期でやらなければならないのではないかと。

○ 次に多かったのが、ソフトからハードづくりにかけてであるが、情報発信に関することである。実際に議論してみると、江別には良いところいろいろとあるのに、みんな

知らないということがとても多い。うまく情報が市民に届いていないのではないか。

- 教育について、4大学を上手く活用できないか。あるいは、「小中高大の連携」であるとか、「学生街特区」というのが、短期に入っている。
- また、「予防接種」などの医療に関することが点在している。
- 「大麻地区の少子高齢化対策」という意見があるが、これは高齢化・市民活動部会の内容だが、暮らし・定住と少子高齢化対策は重要であるので、意見としてはここでは少ないがこの部会でも重要なテーマである。
- ソフトの左側の枠外にある「働きながら子どもを産んで育てられる街」、「大麻地区が将来消滅するのではないか」というのは概念的なものなので、重要ではあるがどこに入れたら良いか分からなかったので欄外にしてある。
- 大麻地区は空き地が増えているまちであり、空き地・空き家の活用等を中期のところにまとめてある。
- 大きく分けて、「安全」、「子育て」、「情報発信」、「教育」、「医療」、「少子高齢化」、それと概念的なものとして欄外に意見を分類している。

#### <委員補足>

- 暮らし・定住部会ということで、ハードよりもソフトやハートづくりが多かった。このソフトやハートづくりは、すぐにでも取り組めるものがあるのではないかと思う。
- ここのマトリックスには書ききれていないが、江別は、継続性がないという意見が随分あった。何かブランドイメージを作って発信して行こうとしても、1回か2回やって終わってしまうのではないか。継続してイメージを発信し続けること、やり続けることが重要ではないかという意見があった。

#### <暮らし・定住部会に関する他の委員の意見>

- 大麻の高齢化について、大麻園町の公団に住んでいたが、公団や市営住宅の高齢化の問題があり、高齢者を上層階から下の階へ移すとかというようなことをやっていたが、かなり空き家が目立っているということで、対策の一環として、大学生に安い家賃で公営住宅に入居していただいて、ある意味自治会的な組織を作っていただいて、見回りや大学生と高齢者との交流を深めていただくということをテレビで放映していた。江別には大学があり、地方から来ている学生もいるので、上手く活用して、高齢者対策プラス空き家対策ができないものであろうかと感じた。
- 住宅に関しての1つの戦略的なテーマとして選ぶ中で、人口が減少していく中で、市街地を広げるような形で新興住宅街を開発していくのが良いものかどうか、総合計画の中である程度明確に示した方が良いのではないか。

また、「学生特区」という言葉に非常に期待しているのだが、いまひとつイメージが掴みかねている。思い切って「教育特区」ということで打ち出してみてもどうか。例えば、群馬県の太田市は、小学校から英語の授業をたくさん行なって、子どもたちの英語力を高めており、それに対して親から高い信用を得ている。江別の場合では、ここでも

出ている「小中高大の連携」という意見において、高校生が大学の授業に参加でき、それが授業の単位・成績として認められるというような、教育において非常に先進的な、そして優れた成果を出しているというようなことになれば、教育熱心な親たちが江別に住んでくれて、いわゆる働き盛りの世代の人口が増えるのではないかと考える。何か「エッジを効かせる」という言い方、すなわち「特徴づける」ということを暮らし・定住部会の中の議論に期待している。

### 3【環境・文化部会：部会長説明】

- 環境と文化という2つの大きな括りは、他の部会との関わりが大きく重なる部分がある。
- 大都市札幌市に隣接している一方で、自然が豊かであり都市と農村との調和を出して行ければ良いのではないかという意見があった。
- 大小いろいろある公園の中で、大麻中央公園や湯川公園といった大きな公園を活かして市民の憩いの場としてはどうか、あるいは桜並木にしてはどうかといったご意見がある。公園を中心とした自然調和型の都市をつくっていくことが求められているのではないか
- 札幌に比較して住宅街・土地の価格が安く、1戸当たりの面積が広いと、住宅街の景色を整備してはどうか。
- 道内でも事例があるので、雪を上手く活用できないか。農作物が環境かどうか議論の余地があるが、山わさびが道内一の生産量を誇っているがよく知られていない。農村と都市の接着材となるのではないか。
- 市内で作られている乳牛やアイスクリームが市内で買えないということがあり、もっと市内の産物を上手く使い、地産地消を進めてはどうかというご意見がある。
- 泥炭の有効な利用、劣悪な環境を逆に地域資源として活用できないか。
- 環境については他の部会との繋がりが強いと、マトリックスがなかなか難しくまだ完成していないが、いずれにしても環境型の大都市に隣接しているまちということで、都市と農村の調和型の地域づくり、特徴ある地域資源を活用していくということが出てくるであろう。
- もう1つの柱となる文化については、暮らし・定住部会の話の中では、いくつか文化的なものを向上させていく、例えば、スポーツ振興で施設整備、指導者の確保ということを通じて、他の部会とも関わるかもしれないが、スポーツを通じて健康になっていただければ、医療費等の負担が減ってくることもあるのではないか。
- また、音楽については、中学校に吹奏楽の器材を提供することで文化が色濃くなるのではないかと。関西地方のあるところでは、こういう文化施設は、地方財政の妨げになるのではないかと発言もあるが、こうしたことが必要ではないか。
- 札幌市を中心に行われているPMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）に関して、PMFの一端でもこの江別市の中でやるのができないか。大きな文化施設のえぼあホールや市民会館等の活用を含めて、文化の色濃いまちにしていきたい。自慢

- ができる江別であること、それが芸術的な街であるということでもいいのではないか。
- また、文化でいうと、江別は歴史が非常にあるので、近代化の中で屯田兵や石狩川の水運の基地であったことなど、子ども達を中心に歴史教育に力を入れてはどうか。
  - すぐにできることだと思うが、図書館などの文化施設の開館時間、開館曜日なども少し利用が広がる仕組みにしてはどうか。
  - 行政サービスの面での意見では、例えば、行政が行っている様々な取り組みの中で、青年会議所のE B E - 1の取り組みや江別経済ネットワークの取り組みと、文化というものの関わりを持たせられないか。
  - また、環境・文化ではないが、市営住宅の建設、市営住宅の中の高齢者、先ほど話題の大森地区の高齢者の住宅地を借り上げて子育て世代に安く貸し出して、定住を進めていくという意見もあった。
  - 環境共生のまちづくりと地域資源の産業化を環境・文化部会で進めていって、都市と農村という2つのキーワードを上手く利用したものが環境・文化につながっていくと考える。
  - 先日の報道にもあった環境クリーンセンターの敷地の中にメガソーラーという大規模な太陽光発電の施設を民間企業が建設・運営するということだが、市役所が協調しながら取り組んでいくことで今後に繋がってくると思う。

#### <委員補足等>

- 補足というよりは全体的なことでも個人的に思っていることだが、マトリックスのやり方がフレーズとしてはわかり易いように見えて、何のことを指しているのか。例えば、先ほどの「優秀な医師の確保」ということは、もともとたぶん文脈があったはず。市民会議の提言としては、アイデア的なものを出さないと、マトリックスで漠然としてこう書かれて提言として出されても分からないのではないか。アイデア的なものとして大学生を高齢者の住む中に混ぜるとか、教育特区でこういうことかというような、補足という表現の仕方、実際に話し合いの中でアイデアとしてあったものがバツサリ消えてしまっているような印象がある。最終的な出来上がりはどうなるのか。

部会長：マトリックスの中で重要と思うところに○印を付けて、数が多ければ良いというものではないが、第7回・第8回でストーリーを書いていくということで考えている。今日の皆様のご意見を踏まえながら、第7回、第8回で重点化の検討をするので、そこで詳しく議論を深めていくことになる。

#### <環境・文化部会に関する他の委員の意見>

- 文化部会は、江別には歴史があり興味深い内容であるが、マトリックスを見るとそういう要素が少ないように感じる。埋蔵文化センター、郷土資料館、旧町村農場などがあるが、みんながそういう所を見られるような環境づくりをするというような、短時間で行けるようにするという取り組みの提言があると良いのではないかと思う。長期のところに「文化施設の充実が必要」とあるが、短期の中で既存の施設でもできる取り組みが

たくさんあると思う。これまでの3つの部会でも出ていたが、要は江別のPR不足である。江別にはこんな良いところがあるというPRをみんなで行うことが必要で、今後の部会において連携して良いまとめにしたいと思う。

○ 短期のハードの部分にある「ごみの資源化、資源回収が普及しており、リサイクル率が高い」について、以前聞いたことがあるのだが、江別はリサイクル率が高くて、江別市民は丁寧に資源を分類するそうで、ペットボトルなどもきれいに洗って出すので、資源としての価値が高く買い取ってもらえるとのこと。イメージ作りで環境先進都市を目指して、先ほどの太陽光発電と併せて、自分たちがちゃんとやっていることをやっていると遠慮なく自信を持ってアピールしていった良いのではないか。

○ PRの仕方についていろいろと思うところがあるが、例えば、こういう会議の予算は1回あたりどれぐらいか。

事務局：報酬、費用弁償、飲み物などで28万ぐらい。会場費は、市民会館に払うが市役所に歳入として入るのでかかっていない。

それだけの金額があれば、えべチュンのポスターをばらまくなど、すぐできることがあるのではないか。前回の会議から今回の会議に向けてこう取り組みましたという1つ1つ取り組んだ成果が見えると良い。

また、マトリックスに書いていることが漠然としているので、イメージが掴みにくかったが、具体的な内容が書いてあると意見が言いやすかったのではないか。

○ PMFの誘致については、札幌はホテルがたくさんあるので、1回に何百人もの外国の人や、近辺に住んでいる人が泊まる場所を確保して開催できるが、江別にはたくさんの方が宿泊できる所も練習やレッスンを行う施設もないので、なかなか難しいと思う。人をたくさん呼んで、そういう建物がたくさん造れるとよいのではないか。

○ これまで3つの部会の説明があったが、共通した部分がかかなり多い、この部会の分け方がそもそも適切であったのか、分かりにくい。

また、既存の文化施設はいろいろある。バスを使っていろいろなルートでガイドを付けて連携したものにするなど、今は財政難なので、それほどお金を掛けなくて今ある文化施設を活用する提案があると良い。

#### 4【安全・安心部会：部会長説明】

○ これまでの話でもあったように、部会ごとに出ている意見が江別を良くしていこうとするものなので重なっている部分がある。6月2日に市の危機対策担当と消防の方にご出席いただき部会を行ったが、1番興味が大きかったことが、高砂駅の所の地下歩道の整備を中止できないのかということであった。

実は、これは、北海道の事業であって、江別市の事業ではない、ということが分かり、平成23年の10月に着工して来年の3月には完成するということがあった。地下道路全体に照明を設置して明るくし、ロードヒーティングを行って凍結防止を行い、長い地下歩道なので、防犯カメラ、防犯ブザーを設置するとのこと。事業の経緯として、6丁目の踏切閉鎖に伴って、平成16年の1月と4月に市民への説明会を開いた時に、地域

住民からの強い要望と江別高校の高校生を対象とした調査結果からできたという説明を聞いた。では、誰を対象としてこれを造っていったのかということだが、地域住民の要望は分かるが、それが江別市民総意のものであったのかということとちょっと違うのではないということから、2つの方向性が出てきた。

1つは、北海道の事業だからといって、それに乗っかっていくというのはいかなものかということで、事業整備をしていく上での市と北海道との関わり方。

もう1つは、住民の要望をどこまで受け入れていくのか。江別市民全体に対してどれほど周知徹底されたのか。それが不十分であったがために、それが不必要ではないかという意見が出てきているのではないかと。とするならば、今後、江別市が公共事業を行う際には、調査の徹底、市民との対話を充分に行った上で、皆さんからの理解が得られたところでやるべきではないか、ここの部分をぜひ提言したいと思う。

- 行政との連携だが、市役所自体がどういう状況になっているのか、市役所の内部としての連携はどうか。タテ割と言われる行政機関だが、連携の状況を見える化して、どこの部署でも連携できるようなものにしていただきたい。
- 高砂の地下歩道を一番利用するのは江別高校の生徒であるため、江別高校の生徒にも協力してもらって、地下歩道空間を高校生と一緒に守っていく、整備していくというような提言をしてはどうか。行政が造ったものを行政が何でも管理していくのではなくて、高校生も使うのだから一緒になって地下歩道空間を良い空間にしていこうとしてはどうかという提言をしたいとの意見があった。
- 市民自治意識を高めるために、何か事業をする際には、市民と行政のやりとりが重要であり、単に行政に任せるのではなくて、市民も意識を高めて対等に議論できるようなところに持って行けるように我々自身も努力しなければならないという意見もあった。
- 説明会については、どこまでの市民を対象にするのか、子ども達も巻き込んで市民参加意識を高める必要があるのではないかと。
- 備蓄の充実という点で、高齢化・市民活動部会では、空き教室の利用に関する意見があったが、安全・安心部会では、「安全」ということでマトリックスの長期の部分がない。短期・中期のところの「マップづくり」では、市の危機対策担当でいろいろとアイデアが入ってきているので、さらに充実させていただきたい。ただ、危機対策担当職員が少ないため、職員削減が言われている一方で、大事な部署にはそれなりの人員を配置したら良いのではないかと。あるいは、民生委員を充実したら良いのではないかと。さらには、そういう人たちが、消防や警察と連携していく必要があるのではないかとという意見があった。
- 他の部会でもあったように、市の広報やホームページというものがあるが、ホームページは、見る人が限られている。市民便りのようなものを充実させる、情報をどう伝えていくか、段階別に手を変え品を変え行っていく必要があるのではないかと。
- 空き教室と関連してくるが、災害時要援護者と言われる高齢の方、障がいのある方にとっては、耐震化だけではなく、避難所のバリアフリー化が大切である。

また、街の中の旅行者がどこに逃げて良いか分からない状況であるので、避難所への

誘導看板が必要ではないか。江別市をPRするならば、そういうやさしさがあっても良いのではないか。

- 新たな提言として、エコの観点からも自動車離れが進み自転車が増えてくると思うので、大麻で整備した歩行者と自転車を分離した道路を江別全域でモデル地区として整備できたら良いという意見があった。その際には、自転車の乗り方指導も必要であるし、江別として自転車と歩行者の棲み分けの考え方を学べると良い。
- 除雪と防犯の部分は、まだ意見が練られていない。

### <委員補足>

- 自転車について、文京台地区の国道12号線沿いと大麻の線路沿いの0番通りというのだろうか、そちらの方が整備されて、江別市も本格的に自転車と歩行者の分離歩道を手掛けるものと思っていたが、前回の話を聞いているとこれを本格的に全市的に行っていくようなニュアンスではなかった。他の部会でも感じている部分があると思うが、江別には良いものがいろいろあり、例えば野幌駅のように新しい素敵なものができるが、それをどういう風に活用していこうとするのか、あの辺の地域をどう再開発していくのかというビジョンを元に良いものを造っていないという印象を強く感じる。

せっかく良いものに取り組むのであれば、それを全市的に広げていくとか、そういったビジョンを持って統一的な考え方を持ってやってもらいたい。

先ほどの先生のお話の中にあつた北海道の事業と市の事業ということで、この歩行者と自転車の分離帯に関しても、文京台の事業は北海道でやっているもので、0番通の事業は市がやっている事業だということで、最終的には市民が使うものなのであるから、やるのであれば市民がどういうものを欲しているのか、または、北海道から提案を受けて非常に良いものであれば、これを市が統一的に同じような仕組みで広げていこうというように考える。そういった統一的な考え方で進めていかないと、歩行者と自転車の棲み分けにしても、歩道を拡張しすぎてずっとやっていくものなのか、それとも車道のある程度狭めて、そこに自転車道を造るのか、いろいろなやり方がある中でそれがごちゃごちゃになってしまうと、利用する自転車の皆さんもどうして良いのか分からない。せっかくお金をかけてやる事業が、非常に使いづらくなると何の意味もなくなってしまう。市の幹部の皆さんは、北海道と連携してできるものであれば、きちんと市としての方向性を北海道へ提案して連携してやっていただきたい。

### <安全・安心部会に関する他の委員の意見>

- 先日、白樺通のアンダーパスの亚克力パネルが壊されて、とりあえず応急処置はしてあつたが、中の方は造りが悪い。6丁目のアンダーパスは、あと100mぐらい野幌側に寄せれば、アンダーパスにならず、自転車なら2mぐらいあれば良いのだから平面交差で下を通れる。100mぐらいであれば、自転車なら十分迂回できる。アンダーパスにするとものすごいお金がかかるのに、なぜそれをやらなかったのか。札幌の学園都市線では、高架の下はどこでもそれをやっていてアンダーパスがない。高砂駅にぴったりつ

けなければならないという発想自体がおかしい。

- 高砂駅近辺を利用している自分にとっては、アンダーパスは不便である。江別市は、近辺の人には言っているが、市全体に対しての周知がほとんどないと思う。

防犯の点から1つ言いたいのが、国道12号線の江別郵便局の近くにアンダーパスがあるが、江小と三小の合併の問題で子どもたちが学校に行くのに通る、通らないという問題で、教育委員会では、今まで事故がないから安全だという発言があったようだが、あそこのアンダーパスは、地域住民が暗黙のうちに危険であるから使わない、使わないから事故がない、ということである。警察署の担当者にしても、何年かで転勤してしまうため、そういう資料が残っていない。あのアンダーパスができた3年ぐらいの間にどれだけ嫌な事件があったか、ということも誰も覚えていない。事故が無いから安全だという神経がおかしいと思う。今後、地下歩道空間を造ったり、整備したりしていくのであれば、市に対する要求というか責任を取っていただきたい。

- この部会で、北海道と市の管轄の話とアンダーパスの方向性の話、そして災害についての看板がない、それらの項目がないどこにもマトリックスにない。メインで話されたことが項目にないので今後追加していただきたい。

委員補足：今の内容に関して、どこの部会も同じかと思うが、このマトリックスは、カードにそれぞれ記入したことがそのまま載っているのであって、専門部会の中で話し合っ出てきたことは、必要であれば盛り込むべきだし、盛り込むというのは今後やっていこうと思う。

- 昨年の震災後、いろいろな意見が出ていると思うが、障がいのある方が大きな体育館だと不安になるので、こじんまりした避難所がほしいとか、現状としてはそういう避難所がないので避難所の多様化について盛り込んでいただきたい。

- 今話した内容を含めてマトリックスに○印をつけるとなると、項目がないのはおかしい。

事務局：部会長が今説明したことをマトリックスに直接記入していただき、大事であれば○印を記入していただきたい。

## 5【まちづくり部会：部会長説明（代理：事務局）】

- まちづくり部会としては、優先順位、必要性、重要性と実現の可能性というものを考えて、優先度の低い意見はマトリックスから外していくという作業を進めた。その結果として、交通の部分では、「札幌の地下鉄延伸」という意見はコスト面で厳しいと判断して外し、また、「江別での特急の停車」や「札幌までの幹線道路の延伸」、「白樺通の275号線までの延伸」についても同様に外してある。

- 逆に、大事なものとしては、大麻と文京台をつなぐアンダーパスのご意見について、集中豪雨などの時に不通になるので対応が必要というご意見があった。

- 部会における主な意見として、江別駅周辺に関するご意見がハードの中期に固まっているが、江別駅の建替えと江別駅前の開発計画を一体的に行うことが必要ではないかというご意見。Aコープの撤退について、住民が住み続けられるように、農協が撤退する

辺りにスーパーが必要ということと、ソフトの所でも「買い物難民のための無料バス」という意見があり、至急取り組んでいく必要があるのではないかと。

- 街並みの整備の部分については、長期のところに入っている「1か所にまとまる場所」という意見があったが、こちらについては、一見効率的であるが、高齢化社会や交通の利便性を考えると、サービスの低下につながる一面があるのではないかとということ、また、ソフト面から行政のワンストップサービス、コンビニサービスについて方法を検討すべきというご意見があった。
- その他の意見として、駅周辺に賑わいのある拠点があると、市内外から人を集めやすくなるのではないかと。また、一方では、賑わいの創出は、箱物だけでは生まれてこない、相当頑張らないと費用対効果が生まれないのではないかと。
- 人口規模については、札幌の隣だから江別はここまで大きくなったものであるということで、今江別の売りが見えない中で、本当に売りが必要なのか、という意見をいただいている。札幌圏の中で、利用できるものは利用して、いかに幸せに暮らしていけるかを検討するのも良いのではないかとという意見があった。
- また、交通については、バスの路線と路線の接続が悪くて不便なので、スムーズに目的地に行けるバス路線の接続について検討してほしい、これについては、コミュニティバスといったものを含めて検討すべきである、というご意見があった。
- 短期のハートづくりであるが、「都市と農村の調和」では、新篠津村のように体験農園で農作物を作る喜びを味わうことから始めて、定住につなげる取り組みができないものか。また、市場を通さずに農業の戸別販売の取り組みができないものか、という意見があった。
- 大学生が農場で繁忙期に働いて単位を取得するという、産学連携の取り組みがあっても良いのではないかとという意見もあった。また、生産から加工、宣伝までの連携の輪も大切ではないか。また、高齢者が畑で野菜を作ってレストランを行うなど、儲からなくても、持続可能な生きがいづくりが市民協働の1つの形として考えられるのではないかと。例えば、白老町の山菜料理のコミュニティレストランの「グランマ」のような取り組みを江別で行えないか、といったご意見があった。
- 次回以降、重点として整理するために今後の方向性について話し合っていくべきこととして、真の豊かさとはどういうことか具体的に掘り下げてまちづくりを考えていくべきではないか。江別駅前が現状として古くなってきているので、まちの再生ができないものかという意見もあった。野幌駅の再生や駅と公共交通のあり方など将来を見据えてきちんと方向性を考えていくべきではないか、そして、地区ごとに特徴に合わせながら、住民が住みやすいように江別全体を考えていく必要があるというご意見。また、将来人口が予測できないから、全体を見ながらきちんと考えていくべきである。短期的には、高齢化が進む中で買い物難民が出ないような配慮と公共交通機関の見直しが必要ではないか。

市への要望として、どの地域の人にも公平な利便性となるように公共交通を考えてほしい。駅は地区の核になるものなので、中期的なもので終わることはなく、将来をき

んと見据えて単発的にならないようなハード面の整備をしてほしい。既存の施設を有効活用してほしい。今あるものの活用は、意識の問題であって、時間のかからないところから徐々にまちづくりに取り組めるのではないか。

- 今後の議論のポイントとしては、公共交通については、住民が我慢せざるを得ない部分と我慢の限界との落としどころをきちんと詰めて、部会としての方向性を明確にして市へ提案したい。
- また、不便な所に住み続けることに疑問を感じて、最近では都心回帰の動きがあるが、大麻に限っては、札幌中心部への転出による人口減少も見られている。江別や野幌も同様の状況になることが予想されるが、若い人たちが流入してくるという魅力的な街になるように持っていけるのではないかという可能性があるのではないか。
- 江別だからこそ享受できる良い部分もあるし、現住地での生活が厳しくなった時に、買い物やJRで札幌直結するという、札幌の中央区の外れやその隣の区と比べても江別は十分に戦えるメリットが駅周辺にある。それを活かして、野幌などの駅周辺の人口密度を高めていくという可能性があるのではないか。但し、農村地区はその特色を活かして、別に計画する必要があるのではないか。
- そして、コンパクトシティの中で利便性を高める層と、逆に、広い土地で過ごしたいという層の様々な人たちの棲み分けを上手くアピールする計画が必要ではないか。
- 最後に、まちづくりの進行やメリットが、段階的に市民の目に見えるような計画であれば、資本を集中するような公共投資も納得ができるのではないかという意見がまとめとしてあった。

### <委員補足>

- まちづくり部会にいるが、会議そのものがまちづくりではないかと思う。1回目から前回の集まりまでの中で考えることがあった。先ほどの意見にあったように、この会議を1回開くのに費用が一体いくらかかるのか、あくまでも委員の人件費だけみたいにおっしゃっていたが、はっきり言ってこれだけの資料をつくるための紙、印刷、その他市役所の職員の人件費も含まれての会議の予算金額ではないかと思う。ということは、それだけの費用をかけてやるこの会議、そして私たちは、アルバイトの人たちが8時間びっしり働いた分だけの金額を1回にいただくわけである。ということは、私たちがそれだけの責任を持ってこの会議を進めなければならないのではないかと思う。それで言いたいことを文章にまとめてきた。

公共交通の検討会議について再度確認したい点があるので時間をお取りいただきたいことが1つ。

顔づくり事業の野幌駅周辺の土地の区画整備事業の中でも後でよくよく資料を見て考える点があったので確認したい点が1つで、お時間をいただきたい。

先ほどの安全・安心部会の関係では、耐震についての有識者会議が1年間開かれたということは聞いているが、その会議の内容がどういうものであって、それがどのように決着しているのかという部分を私達市民は知らされていない。そのことについてもお知

らせいただきたい。

これらのことは、職員が来て説明してくださるが、専門用語が多すぎて分かりづらい。一般市民でも理解できるように正しい日本語で説明をお願いしたい。

今日参加している皆さんに言いたい。江別市の今後5年から10年の長いビジョンを考えるのに、9回の会議で満足なのか。先ほどから、マトリックスを中心に検討しているが、とつてもあと3回で何とかなるとは思えない。これが、市民とか対外的に対する江別市としてのポーズであるならば、税金の無駄遣いであるから止めてほしいと思う。そういうことを私は言いたい。そして、このような各年代の市民の方を集めてする会議であれば、時間的な余裕を持ってほしい。それでお金がかかるというのであれば、削ってほしい。

そして、この会議が始まって5月23日の会議の時にお伺いしたが、この公共交通に関する会議を起ち上げるということであった。その会議が、公共交通だけで2年間をかけて話し合われると言っている。私たちのこの会議で公共交通のことを話し合っているのに、今度それをどうやってすり合わせて提言に持って行くのか疑問である。これからのことについて、もう少し皆さんも広い目で見えて考えて、本当にこれだけの会議の時間で十分なのかどうかということを含めて意識していただきたい。

まちづくり部会の中の提言とかマトリックスとかの補足ではないが、この会議全体の持って行き方、今日は傍聴の方も今までより多いような気がするので、この傍聴についてももっとアピールしてほしい。いろいろな所で探してみても見つからない。確かに市の広報には載っている。また、インターネットでそこまで調べて来られる人なんていないと思う。先ほどから何回も出ているように、アピールの仕方、皆さんに知らしめる方法というものをもっと充実してほしいし、せっかく来てきている傍聴の方なので、やはり違う観点で見られているのではないかと思うので、何らかの形でこの方たちのご意見も私たちの会議に反映してほしいと思う。

事務局：公共交通の検討会議は、今月下旬からスタートする。今回まちづくり部会の中で公共交通に関するご意見、そして提言が出てくることは十分承知している上で、各地域の代表の皆さん、そして都市交通専門の大学の先生にも入っていただき、また、市民参加ということで4名の市民の方の代表も入っていただいて、江別においてどういう公共交通であるべきなのかという姿を検討していただく。この会議では、市内のバス会社4社のそれぞれの代表も入る構成となっているので、より具体的にどうすれば市民のニーズに応えていけるのかということについて2年間かけて議論していこうとするものである。

1つには、野幌駅を挟んで南北のバスの行き来がないところであるため、野幌駅が鉄道高架化されて、1つのターミナルとしての機能をより高めていくことを含めて検討する。野幌駅前の北口広場が平成26年度に完成するので、駅前広場のバスターミナルをどう活用していくか、また、これまでの市民会議の議論でもあったコミュニティバスの取り扱いをどうするかについても検討を行う。ただ、もしコミュニティバスを導入するとなると、国の制度活用する方法があるが、そ

の場合は、法定のバス協議会というものに移行して手続きを踏んでいくことになるので、若干時間がかかることになる。こういった様々な議論をより具体的に、より専門的に有識者の皆さん、バス事業者の皆さん方を含めて検討するというのが、今回の公共交通に関する検討会議である。

12万人都市のたった4人の市民の参加だけで良いのか。ここに43人の市民でいろいろなことを考えているが、江別市全体のそれこそ豊幌も、角山も、世田谷も含めた中でたった4人の市民の参加だけでよいのか。すごく不安である。

事務局：公募した市民が4人ないし5人であり、週明けには応募された方へ決定の通知を送るが、この他に自治会の代表者が3名、社会福祉協議会から1名、女性団体協議会から1名など、福祉団体から3名、そのほかに地元のバス事業者の代表者、大学の先生は札幌の都市交通の専門家、もう1人は市内の大学の先生という構成で、概ね15～16名で現在考えている。

自治会の方から3名と聞いたが、江別市に自治会はいくつあるのか。全部の自治会の方の意見というのは集約されないのか。

事務局：市民の皆さんのご意見を伺うということで、これからバス利用者の方のアンケート調査、市内の公共交通機関の実態調査を並行して行う。自治会は、全体で150～160あると思うが、そのうち代表者3名ということで、江別、野幌、大麻の各自治会連合会へお願いして各1名ずつ参加していただく。従来はバス懇談会というもので、全体で10名ぐらいで議論していたが、これを拡大して今回はより細部にわたる検討作業を行うということでこのような体制をとっている。

今後その会議が進んでいく都度に市民に対する何らかのアピールか報告というものを全部お願いしたい。また、その会議に参加していない市民の意見を汲み取るということも提案する。

事務局：議論の経過については、従来からも、この未来市民会議についても経過報告については、全部公開している。他の市の審議会等についても、資料を含めて全部公開しているので、同じように公開をしていきたい。また、市民の皆さんの意見を伺う場ということでは、パブリックコメントの対象となる事業であるのでその対応をしていきたい。また、アンケート調査の中で市民の皆さんのご意見を伺うことも十分可能かと思うのでご理解いただきたい。

今まで以上に丁寧な対応をお願いしたい。パブリックコメントと言われても、パソコンを使ってない人とか、公民館に行くことができない方、あと広報というのは必ず全家庭に配られているものだと思っていたが、配られていない部分もあるので、そういう部分で分かりやすい公開をお願いしたい。見に行けば分かるという体制ではなくて、知らしめてもらいたい。

事務局：十分趣旨に沿って対応したい。

### <まちづくり部会に関する他の委員の意見>

○ 江別駅の話について、マトリックスだけを見ると江別駅の再開発が必要という提言か

と思うが、それなら大麻駅も豊幌駅も同様ではないか。この意見が何に対する意見かという、今、顔づくり事業ということで野幌地区中心に開発し、選択して集中させていくということが現在進行の形であるが、それに対するアンチという意見として捉えたら良いのか、それとも単純に各地区の要望として、全体に平等に1つが突出することなく利便性を考えていくということなのか、その点を確認したい。

事務局：アンチではなく、議論の中では、江別駅周辺の商業施設がなくなるお話、シャッター街が大変な状況にあるという商店街のお話、そして江別地区の人口も減ってきているという状況の中で、江別駅を利用される方の利便性を高めていくとか、さらにそこを活性化していくという視点での議論の内容であったと認識している。

人口が減って、経済的に市の収支が減ってきているという話がいろいろなところで出てきていて、その前提でその話を持って行けるのかどうか。要するに、先ほどの札幌から地下鉄を持ってくるのは無理だという話がすごい極端で分かりやすい例として出たが、そんな話はしても仕方がないのではないかという話になるのだろうけれども、そこまでは行かなくても、結局、江別市は横に長いまちなので、全体に平等に少しずつ利便性を上げていくのか、1か所にある程度集中させるのかということは、こういう議論をする時にはなければならないと思う。

例えば、この意見の所に賛成すると○印をマトリックスに付けたとすると、江別駅周辺の開発自体は賛成で、ただ大麻も豊幌も同じだろうというぐらいの感じの意見で。全体のバランスからいくと、本当に全部を再開発するみたいな話ができるのか、その辺の議論があつての話にならないと意味がないのではないか。提言としては、意味がないのではないか。

委員補足：江別駅に意見が集中していると言われるのは分かっている。話し合いの中では、江別駅だけではなくて、野幌駅もあそこぐらいまでなっており、ただ、江別を活性化するためにどうやって人を集めようかなというところから、この話が出てきている。結局、大麻はある程度学生がいて人通りもある。野幌も新しい駅になってだんだん活気づいてくるだろう。ただ、江別駅だけが取り残される。しかも学校の統廃合の問題で江別小学校が風前の灯になっている。江別市の条丁目というのは、千歳川から5丁目の陸橋ぐらいまでの辺りというのは、まさしく人がいなくなるのではないかという危機感もあって、このような意見が出てきているのだと思う。話し合いの中では、必ずしもここだけとか、例えば、野幌駅だけを集中してするとかいうのではなく、等しく駅があるのであれば、活性化してほしいという希望でこのような話が出てきた。

- 今までの各部会の議論の中で出てきたご意見で共通するのが、「市民自治」である。「市民自治」に関してそれぞれ各部会で話し合っていくのか、それともどこかで集約して話し合っていくのか、議長としてどのような考えをお持ちであるか。

議長：きちんとした仕組みづくりをしなければならない。小さなすぐにできるものから、長期的な大きなものまでであるが、仕組みづくりがきちんとできていない。では、ど

こができていくかというのと、どこもできていなかったのだからと思う。また、こういう未来のための市民会議というのは、今まで実際に全国的にもあまりないので、新たな方法論、仕組みを私たちが今作っていると考えていただいた方が良く思う。今、グループ毎にディスカッションされて、私たちの意見が本当にこれ通るの、通らないのと思われている。この議論が2回、3回とあったので、やはり「市民自治」はどうあるべきか、ということ全体でしっかりと話し合わなければいけないものであり、それが提言になっていくのではないかと思う。その辺りも先生方とまた打合せしなければならない。まずは、グループ毎に意見を練っていただくということをやっていたきたいが、いかがだろうか。

おそらく各グループで「市民自治」に係る部分を議論しているのだから、それを集約して、それを総合計画の1つの柱として、盛り込んだらどうか。

## 6 【地域産業部会：部会長説明】

- 地域産業部会では、部会に入るまでにいろいろなご意見をいただき、その中には行政がやるべきもの、民間企業だけでもできるもの、戦略レベルのもの、全市的なもの、いろいろ出てきた。実際にマトリックスに落とし込んであるものは、全部回答に値する意見であったので、全て残してある。ただ、総合計画に関しては、10年間の計画であり、5年終わったら見直しがあるにせよ、ある程度長期にわたって使われる計画、そして、その中で行政のいろいろな事業が動いていくということを考えて、ある程度まとめたものが白い四角に書かれているものである。
- まず最初に、地域産業部会としての1つの結論としては、地元でちゃんとお金が落ちる仕組みにしていこうという目的が挙がってきた。マトリックスの左側の「ネットワーク型経済へ」というところであるが、江別にある素晴らしいいろいろなものを結び付けて、より高い価値をもたらす。それが結果として、この江別に暮らす方々が満足して暮らしていける社会にして行こうというようなものである。
- 「ネットワーク型経済」というのはどういうものか、少し補足する必要があるが、「6次産業化」ということである。今まで、1次産業、2次産業、3次産業という形で、総合計画の中でも産業振興の政策がつくられてきた。それらをきちんと結び付けて、トータルで江別の価値を高めていく「6次産業化」というのが、「ネットワーク型経済」の1つの考え方である。具体的に「ネットワーク型経済」で「6次産業化」というのがどういうところに出ているかというと、マトリックス上で「ネットワーク型経済」の右に配置しているようなものである。例えば、江別の持っている素晴らしい1次産業、そして、その1次産業から食品、製品に加工していく2次産業、さらに、そういった江別の素晴らしい1次産業を使いながら、飲食業などで提供していく3次産業。これらを結び付けてネットワーク化していく、そこで価値を見出していくというのが大きな柱の第1点である。
- 第2点として、ハードのところでも中期と短期の間ぐらいに書いてある「中小企業、商店のネットワーク」だが、江別にもいろいろな商店があり、大型の商業施設もある。商

店街の活性化の話や大型商業施設が足りない地域もあるので誘致してほしいといった話などもいろいろといただいた。ただ、その中で言えるのは、今ある商店、小売りの商業施設といったものを物流と結びつけて買い物難民が出ないような仕組みを社会全体、地域全体で作っていったら良いのではないか。そういうことで、「中小企業、商店のネットワーク」が書かれている。

具体的には、野幌の商店街で売られている商品が、角山の方に住んでいる方に届けられるといった市内の中で物流ネットワークを築いて、商業施設が近くになくても、買い物難民が出なくなる。こういうようなものを想像したものである。

- もう1つ、物流ネットワークについては、中期と長期の間にある「地域の物流ネットワーク構築」である。これは、江別の場合、高速道路のインターが2つあり、道北やオホーツクからの高速道路とネットワーク化されているインターである。従って、道北、道東圏からの物流のネットワークのある種の拠点になり得るということで、このような柱を立てたところである。

物流業に着目したというのは、地域の中で雇用を生み出していく、そして、物流というのは物が動き、人もお金も動くので、1つの産業として有望ではないかというような考え方からである。

- 江別市内の小回りの利く物流ネットワークと北海道全体の物流ネットワークを担う、そういう2つの物流のネットワーク。これを産業の1つにしていきたいというのが、2点目である。
- 3点目としては、ハートづくりの所にいろいろと書かれている観光の問題である。今ある地域資源を見直して、良いものを上手く売っていく、パッケージ化して売っていく、そういった観光資源化をしよう。そして、観光資源化したものを上手くネットワークにつないで、多くの人に利用してもらおうという考え方から出てきたものである。

例えば、石狩川という非常に素晴らしい水資源があってその河川敷あたりを親水公園にする。そして、その石狩川を夏の間は、江別から石狩市に向かって屋形船とかそういう遊覧船みたいなものを出して楽しんでもらう。そういうことで、札幌市という人口約190万人の都市の近隣の市として日帰り観光で活性化しようということなどで観光としていろいろ出てきたものである。

- もう1つあったのは、江別が抱える野幌の原生林である。この原生林を使った自然体験観光を売りにして、札幌も確かに自然は多いが、江別も豊富であるということで、自然を活かした観光を、例えば学生のボランティアの方たちにガイドになってもらったり、また地元の人たちにボランティアガイドになってもらったりして、札幌圏の人たちに楽しんでもらう。そういった今あるものを有効活用した観光のネットワークを作っていくというのが3つ目の大きな柱ということになる。

#### <委員補足>

- 石狩川を使うというのは、他の部会ではなかなかないところである。江別駅の暗い話を出さないようにした。全体的な産業ということで、この部会では、商業と農業のネッ

トワークについてアイデアを出したいということと、お金が必要なので、なるべく市民だけでなく、札幌からも来てもらうようなことができないかということを考えてみた。

- 同じことではあるが、3つにまとめられると思う。1つは、江別の自然を活かす。それから、江別をもっとPRする。それから、4つの大学を活かした産官学の連携でもっと取り組みができないか、ということをやっていく。今までの部会の皆さんの提言を踏まえて、それが基礎となって、地域産業部会というものが成り立っている。それがなければ、高齢化社会だったり、少子化対策だったり、子育てなどというものがクリアされない限り、江別市という地域を明るくこれからのことを望んでいくということを考えられない。それをどういう風にすればできるかということ地域産業部会も考えていきたいということで、今の段階でまとめたものである。あと何回か皆さんともっと良い議論ができればと思う。
- どうしたら地域が活性化するか、ということを中心に皆さんで討論した結果のまとめがこういう意見であるが、まずは外部からいかに人に来てもらうかということで、テーマとして考えたことは、江別のまち自身を我々もPRするけれども、市役所ももっと広報等を利用する、また外部へ観光に関するパンフレットで宣伝していただいて、江別というのはこういう良いまちであり、こういう特色があるということをしちっとPRしなければならない。他の地域を見ても、市役所の方々が一生懸命宣伝をしている。江別もパンフレットは出しているみたいであるが、ほんの一部にしか出していないので、特別立派でなくて良いので、江別にはこういう観るところ、例えばガラス工芸館とか野幌公民館とかいろいろ立派なものがあるが、さっぱり知られていないから来ていないということで、再度その辺りを含めながら考え、そして、江別の小麦を使ったスイーツを作っている美味しいところがある。これをいかに知ってもらうかということで、循環パスを上手くつくって、観光ルートを考えながら、外部から江別に来てもらって、食べるコース、観るコースに分けた中で、何とか外部からの誘致ができないかとみんなで考えた結果である。
- 各部会のお話を聞いて共通している部分がたくさんあるというのが分かった。今まであまりにもたくさん意見が出過ぎていて、この部会でも何を具体的に話し合ったら良いのかという見えてない部分もあったが、部会長が言っていた地元にお金が落ちる仕組みや物流ネットワークを作るというのが、前回部会で話し合った時に非常に重要であるということが出ていて、全体の中で共通している部分とを連動させて、次回から具体的に、例えば、EBE-1を定例化するというのも出ていたし、公園の整備というのも出ていたので、そういうことを踏まえて具体的に地元にお金が落ちる仕組みというのをこの部会で考えていきたい。

#### <地域産業部会に関する他の委員の意見>

- 先ほどまちづくり部会の方がおっしゃっていたが、このような提言は、本当にこれだけいろいろな意見が出た中で、それを集約してあと1、2回でまとめて、市に提案してそれを市長がどう考えるか。実は、前回の安全・安心部会の時に、今年1回限りのこと

なのか、続けていく考えはあるのか、ということをして市に投げかけたところ、それはまだ不透明だということだったが、やはり、これだけの人数がずっと継続して行うという必要はないのかもしれないが、もっとコンパクトな形でやるという考え方もあると思う。とにかく、1回だけのものではなく継続的に、江別をこれからどういう風にしていこうとするのか、定住させるとか、お金を落とすとか、いろいろな案があるが、少子化の問題を含めてこれから街がなくなる時代がどんどんくるのではないかと。江別も札幌の隣だから大丈夫ということはないと思う。やはり、大都市である札幌の隣の利点を活かすには、人を呼び込む、その人を呼び込んだ中で定住をさせる考えを持つ。やはり長期的なビジョンがないとできないことなので、江別をどんな街にしていこうかというものがないと、我々もアピールと繰り返し言っても単発的に施設をアピールしただけでは、本当に江別に人が来てくれる、定住してくれるものにはならないのではないかなと思う。

この春に浜松へ行ってきたが、浜松という街は、吹奏楽発祥の地で音楽というものが非常に街に溢れている。例えば、音楽に関するモニュメントがいろいろとあったり、駅の前で吹奏楽のコンサートをやったり、新しい高速のインターチェンジにピアノのデザインのものがあったり、浜松という街は、音楽というものを中心に皆様とやっていくのだということが、住んでいない人間にも分かりやすい。では、江別にそういったものがあるかという、当初はレンガというものをアピールしようとしたのだろうが、それも中途半端で終わっている。先ほどPMFの話があったが、決してホールでやらなければならないものでなく、駅前の広場を活用したり、または、PMFもピクニックコンサートということで、芸術の森で市民をたくさん集めて、広い広場で音楽を演奏しているというがあるので、江別にも野幌運動公園とか、江別高校の跡地であるとか、広い場所がある。そのようなものを上手くイベントに活用して、こういったもので近郊から人を呼んで、その呼んだところに物販ブースなどを広く設けてお金を落としてもらうとか、そういったことをいろいろと考えていけると思う。とにかく、ビジョンという部分でどういう風にしていこうかな、ということをして我々が集まって話していると思うので、これからもこの部会というやり方を継続してやっていかなければならないと思っている。

部会長：1990年代ぐらいから、いろいろな地域で自分たちの街づくりをしようという市民が中心となった会がある。江別の場合は、今回、総合計画ということで、行政、特に市長のビジョンをどう実現していくかという計画を作るための会議であるから、ビジョンをつくるというミッションを我々に与えられていないのではないかなと思う。しかしながら、本来は、この江別に住んでいる市民の方々がビジョンをつくるということは非常に重要であると思う。例えば、こういった未来会議を母体として江別100人会議とか、1,000人会議とか、そこまでいくと大変かもしれないが、そういうような市民が中心となった会議とかを開いてみたらどうだろうか。当然議会もあるが、議会とは違った形で、市民のまちづくりをしていくという仕組みが、今江別に求められているのではないかなと思う。

- 最初の時にランダムに意見を出す段階でやっていた時に出ていたような気がして、この部会に「観光資源のネットワーク化」という所で、ぜひ考えていただきたいのが、

マスコミの利用ということで、いかに上手くマスコミに乗っていくかということが、観光等には重要ではないかと思う。

もう1つ、石狩川まで話が行って惜しいなと思っているのが、農村部の方にも、中津湖であるとか、今年開催は分からないが、ひまわり畑であるとか、草野河畔林であるとか、非常に観光資源がたくさんある。ご存知ない方がたくさんいるので意見が出なかったと思うが、中津湖のフットパスについては、農村部の方が一生懸命に独自で整備をされており、その辺りをぜひ観光資源のネットワーク化の中に入れていただけたらと思う。

部会長：江別にはいろいろ良いものがあるって、そういった宝を市民の方が発掘して、発信する仕組みが江別にもあったら良いのではないかと。北広島市では、シティセールスということをして一生懸命やっている。自分たちの地域で何が本州の人たちにアピールできるか、そういった魅力を売り込むという考え方がある。江別でもぜひシティマーケティングという、自分たちの持っている素晴らしいものを多くの人たちに愛してもらい、そして、お金が落ちるようなマーケティングをぜひやっていただけたらと思う。

- 各部会で分かれているものの、共通している部分があって、バラバラにやるよりはという話があったが、実際にはそういう場面があると良いのだが、回数的に設けられない印象があるので、この後、次回日程などをそれぞれの部会で決められると思うが、一番手に開催された部会で他の部会とリンクするような、例えば、トップバッターで開催された部会で共通するような意見が出たら申し送るような形で調整可能な方には入ってもらいたいのか、どなたかが1人ずつ順繰り、順繰り入っていくというわけにはいかないのだからと思うので、何かそういうような工夫を具体的にやっていただくと良いのではないかと思う。

議長：検討させていただいて実施をしたいと思う。

## ■部会間異動

なし。